

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立近衛中学校

5月27日(木)に、本校3年生81名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校の状況がまとまりました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

国語、数学ともに全国平均、京都府平均を上回っています。しかし、領域別、問題別にみると、全国平均、京都府平均を下回っている箇所もあり、課題分析が必要です。

国語科より

全体的によく出来ています。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域については、6ポイントも上回りました。

しかし、「読む」領域については全国平均を若干下回りました。特に「文脈の中における語句の意味を理解する」問題の正答率が低く、新聞や読書に親しむ態度が大切です。

数学科より

全体的によく出来ています。特に「関数」や「図形」の領域については、10ポイントほど上回りました。

しかし、記述式の問題については全国平均を上回っているものの、正答率が低い結果でした。今年度は長い文章で出題された傾向があり、文章を数学的に読み解く力と数学的に文章で表現する力が大切です。

上記の結果は、近衛中学校の平均でしかありません。今回返却された個々のデータを見ると、それぞれの課題が見えてくると思います。返却されたデータと問題を見比べ、どこに自分の課題があるのか、個人でも分析してみてください。また、正答でなかった問題に関しては再度、チャレンジするなどしてみてください。

生徒質問紙から

生徒質問紙は「学習に対する興味・関心等」「規範意識・自己有用感」「生活習慣・学習習慣」の3つの領域で構成されています。それぞれの項目ごとの結果をご報告します。

①学習に対する興味・関心等

国語・数学に対する興味・関心は全国平均を上回る結果となっています。2教科に興味・関心のあることが、学力面においても全国平均を上回る結果と関連があることがわかります。また、学力面の結果だけでなく「(国語あるいは数学で)学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対しても全国平均を上回り、「大人になったときの必要な学力」としてとらえていることがわかります。

②規範意識・自己有用感

規範意識に関するものとして「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の3つの質問がありましたが、どの質問も全国平均を大きく上回っていました。自己有用感については「自分には、よいところがあると思いますか」が全国平均を上回り、「将来の夢や目標を持っていますか」については全国平均を若干下回る結果でした。

③生活習慣・学習習慣

生活習慣に関するものとして「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の3つの質問がありましたが、いずれも全国平均を上回っています。学習習慣については「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」という質問紙に対し、全国平均を下回る結果が出ています。現在スケジュールノートをどの学年でも活用していますが、学習の計画もしっかり書込む必要があると思います。

④その他

生徒質問紙において全国平均を大きく下回った質問があります。「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対し、きちんと守っている、だいたい守っている、と答えた生徒の割合が全国、京都府の平均を大きく下回っていました。現在、タブレットの貸出を学校から行っていますが、その使い方も含めて、学校、ご家庭で ICT 機器の正しい使用の仕方について生徒たちに話していく必要があると思います。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は学校・家庭・地域での地道な積み重ねによって定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤になります。今後とも引き続き、「お子たちの健やかな育ち」と「学びの環境づくり」にご協力をお願いいたします。